

満月の夜開く



けいはんな哲学カフェ「ゲーテの会」

昔から祭りは満月の夜に開かれてきました。“けいはんな哲学カフェ「ゲーテの会」“は、そんな満月の夜に「文明の未来と人類の幸福」について考える会です。高等研の庭にはゲーテの胸像があります。その視線は「フクシマ」のほうを見やりつつ、近代文明の現状を憂いているかのようなではありませんか。

けいはんな学研都市の建設理念は、「従来の近代科学技術文明を乗り越え、新たな地球文明を創造するために、西欧が生み出した文明の成果と自らに固有の東洋的文化を総合する」ことにあります。ゲーテの胸像はその理念のシンボルです。今宵、ゲーテに立ち返りながら、近代科学文明のあり方を一緒に再考してみませんか。

(2013年8月21日開催の発足会案内より抜粋)

日時 2014年 **2月15日** (土) 18:00~20:30

場所 公益財団法人国際高等研究所 コミュニティホール・庭園

講演 近代科学をいかにして超えるか—自然と人間との関係性を考える— (Part III)

トランスサイエンス時代の科学のあり方

講師：池内 了 先生

【講演要旨】「科学に関係しているが科学のみでは答えられない」、そんな問題群をトランスサイエンス問題と呼ぶ。コモンズの管理をどうするか、原発で想定される危険性はどこまで許されるのか、予防接種の副作用をどう考えるのか等々、科学が示すことができるのは大枠に過ぎず、実際の選択を行なうのは市民であり、さまざまな立場や得失・長所短所を考えて慎重に選ばなければならない。しかし現実には、政府・官僚・企業・マスコミ・科学者が一体となって推奨し決められてきた。原発がその典型である。科学・技術文明の未来を展望するとき、私たちは哲学や倫理の観点をも採りいれてトランスサイエンス問題にいかに対応すべきかを考える習慣を身につけねばならない。その糸口を探るとともに、その流れの中で、地下資源文明から地上資源文明への移行が必然であることを議論してみたい。

【講師略歴】1944年生まれ。国立天文台、大阪大学、名古屋大学などを経て、2006年より総合研究大学院大学教授、現在は理事を兼任しているが本年3月末で任期終了。専攻は宇宙物理学、科学・技術・社会論。最近の著作に『科学と人間の不協和音』『科学の限界』『現代科学の歩き方』があり、近刊として『科学・技術と現代の社会』（みすず書房）の出版を予定している。

参加費 1,000円 (講演終了後の交流・懇談会費用を含む)

定員 40名 (先着順)

申込 「参加申込書」(裏面)によりお願いいたします



主催：公益財団法人国際高等研究所
満月の夜開くけいはんな哲学カフェ「ゲーテの会」(略称：けいはんな「ゲーテの会」)

後援：木津川市、精華町

協力：ゲーテ・インスティトゥート・ヴィラ鴨川、ドイツ連邦共和国総領事館(予定)

事務局：公益財団法人国際高等研究所事業部(担当 竹島)

参加申込書

- 下記に必要事項を記入して、FAX 又は郵送でお申し込みください。
- E-mail でのお申し込みの場合は、以下の内容を記載してお申し込みください。
- なお、申込書記載の個人情報は、当会の開催ご案内等を行うために使用させていただきますが、外部に公開することはありません。

◆ お問い合わせ、お申し込み先 ◆

〒619-0225 京都府木津川市木津川台9丁目3番地
 公益財団法人国際高等研究所 事業部
 けいはんな「ゲーテの会」事務局 (担当：竹島)
 E-mail : goethe0828@iias.or.jp FAX : 0774-73-4005

満月の夜開く けいはんな哲学カフェ 「ゲーテの会」 第7回 2014年2月15日(土)開催		
お名前		
ご所属		
部署		
役職		
連絡先	ご住所	
	TEL	FAX :
	E-mail	

■ 会場案内

